

コスモス ニュースレター EMC & 安全

Cosmos Newsletter on EMC & Safety

発行日 2023-09-01 No. 156

株式会社 コスモス・コーポレーション Cosmos Corporation

〒515-1104 三重県松阪市桂瀬町 718 番地-1

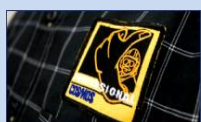
<https://www.safetyweb.co.jp/>

記事の配列は、概ね、国際規格を最初におき、米、欧、オセアニア、アジアの順です。

コスモス ニュースレター EMC & 安全

目次

エグゼクティブサマリー Executive Summary	2
IEC: 規格解説: CISPR 16-2-3 第 4.0 版 2019-06 修正 1, 修正 2 – 放射妨害波の測定 (1/2)	3
IEC: 新規格リスト	6
ISO: 新規格リスト	8
UNECE: 車両規制調和世界フォーラム(WP.29)第 190 回セッション報告書(2/3)	9
国際テーマ: EU: サイバーセキュリティに関するニュース: 無線機器指令 (RED) の委任規制	11
国際テーマ: ベトナム、通信機器の新規制を施行: 通達第 04/2023/TT-BTTTT 号により実施	11
国際テーマ: インドの通信機器の強制試験・証明スキーム(MTCTE)に関するニュース	12
国際テーマ: コスモス・ニュースから各国認証関連情報を再掲	13
USA: FCC: GSSI 社の 新しい超広帯域(UWB)地中レーダーデバイス: 規則の一部の適用免除	14
USA: FCC: KDB: 5.925~7.125 GHz 帯で作動する U-NII 6 GHz デバイスの証明要求事項	14
USA: FCC: KDB: 通信機器証明機関 (TCB) の役割と責任に関するガイダンス文書	16
USA: FCC: KDB: RF 機器の試験を実施する認定試験所に対する FCC の承認ガイダンス文書	16
USA: FCC: KDB: 試験所機器認可システムのデータにアクセスするための Web サービス	17
USA: FDA: 1997 年米国食品医薬品局近代化法: 認知規格リストの変更、認知リスト番号 060	18
USA: DOE: 省エネプログラム: 最近の連邦官報による通知	18
USA: ANSI/UL: 新規格リスト	19
USA: IEEE: 新規格リスト	20
カナダ: ISED: RSS-198 — 3900~3980 MHz 帯で作動するブロードバンド機器 第 1 版発行	21
カナダ: ISED: RSS-247 — デジタル伝送システム(DTS)等免許不要無線 LAN デバイス発行	22
EU: 欧州委員会、安全でない玩具からの子供の保護を強化: 玩具安全規制を提案	24
欧州: UK: UKCA マーキングに関するガイダンスを更新: CE マーキングを 2024 年以降も承認	25
EU: CENELEC: 新規格リスト	26
EU: ETSI: 新規格リスト	29
オーストラリア: AS/NZS 新規格リスト	30
中国: SAMR: 強制性製品認証書ならびにマークの管理の改善に関する CNCA 公告	31
中国: CNCA: 主要ネットワーク機器等の安全認証実施規則の改訂公告発布	32
中国: CQC: リチウムイオン電池および電池パック等: 2023/8/1 から強制性製品認証を実施	33
中国: CQC: 電気付属品製品の強制製品認証実施細則の改訂に関する通知	33
中国: CQC: 照明器具の強制性製品認証実施細則の改訂に関する通知	34
中国: CQC: 電磁式エレメンタリリレーの新版規格および認証規則の実施に関する通知	35
中国: CQC: 電動工具用充電器の製品認証への新しい規格と認証規則の実施に関する通知	36
中国: CQC: 電動工具の II 型任意認証規格 GB 17625.1-2022 への規格格上げに関する通知	36
中国: CQC: 照明製品のブルーライト危険度認証規格変更に関する通知	37
中国: 新規格リスト	38
台湾: BSMI: 除湿機の最低エネルギー消費効率基準とエネルギー消費効率等級等関連要求事項	39
台湾: 新規格リスト	39
韓国: 放送通信機資材等試験機関の指定及び管理に関する告示: 試験成績書のセキュリティ措置	40
韓国: 電磁波適合性試験方法の一部改訂通知: 国家標準 (KS) の改正を反映する改訂	41
韓国: 安全性検査制度の導入を反映するため「安全確認試験機関指定及び審査ガイド」を改正	41
韓国: KS 新規格リスト	42
総務省: ローカル 5G のより柔軟な運用に向けた制度整備: 電波監理審議会からの答申を踏まえ	44
総務省: 700 MHz 帯における狭帯域 LTE-Advanced システムの導入に係る制度整備	44
総務省: 「自動運転時代の“次世代 ITS 通信”研究会中間取りまとめ」及び意見募集の結果の公表	45
総務省: 情報通信審議会 電波防護指針の在り方に関する検討作業班 (第 15 回) 配付資料	46
経済産業省: 電気用品の技術上の基準を定める省令の解釈の一部 (整合規格の採用等) を改	47
経済産業省: 「生成 AI 時代の DX 推進に必要な人材・スキルの考え方」を取りまとめました	48
経済産業省: 日本発の「自動バレー駐車システム」に関する国際標準 ISO 23374-1 発行	48
ちよっといっふく〜小クイズコーナー IEC 62368-1 で規定されるセーフガード	13
コスモス・コーポレーション: 自動車部品の耐水試験についてのご案内	23
社長の独り言	49



IEC: 規格解説: CISPR 16-2-3 第 4.0 版 2019-06 修正 1, 修正 2 - 放射妨害波の測定 (1/2)

- CISPR 16-2-3 第 4.0 版「無線妨害波およびイミュニティの測定装置および方法の仕様 - パート 2-3: 妨害波およびイミュニティの測定方法 - 放射妨害波の測定」の修正 1 は 2019-06 付けで発行されている。修正 2 は 2023-03 付けで発行された。
- 修正 1 (A1) の主要内容
「7.1.2 測定方法、周波数範囲、測定距離に依存する最大 EUT ボリュームの概要」。本新設項において、最大 EUT ボリュームが、周波数区分ごとに、又、試験場又は試験の種類ごとに定められた。
- 修正 2 (A2) の内容は、次号で報告する。

USA: FCC: KDB: 5.925~7.125 GHz 帯で作動する U-NII 6 GHz デバイスの証明要求事項

- FCC 規則パート 15 のサブパート E に基づく 5.925~7.125 GHz 帯で作動する U-NII 6 GHz デバイスの証明を取得するためのガイドとして、ここに 5 件の付属文書が提示されている。そのうち、987594 D02 U-NII 6 GHz EMC Measurement v02r01 には、実証のための試験レポート、添付書類、そして、測定手順が取り上げられている。

EU: 欧州委員会、安全でない玩具からの子供の保護を強化: 玩具安全規制を提案

- 玩具安全規制を提案。欧州委員会は、玩具の潜在的なリスクから子供を保護するため、現在の指令(Directive)を改訂する玩具安全規制(Toy Safety Regulation)を提案した。有害化学物質からの保護の強化と、取り締まりの強化を目的としている。

欧州: UK: UKCA マーキングに関するガイダンスが更新: CE マーキングを 2024 年以降も承認

- 英国政府はグレートブリテン(イングランド、ウェールズ、スコットランド)において CE マーキングを 2024 年 12 月以降も無期限で引き続き認めることを決定。これに関連した UKCA マーキング文書へ本項に記載のように注意書きが追加された。

中国: SAMR: 強制性製品認証書ならびにマークの管理の改善に関する CNCA 公告

- 中国 CNCA が公布した《強制性製品認証書ならびにマークの管理の改善に関する国家認証認可監督管理委員会公告》により、CCC 認証においては電子認証書が発行され、申請者が要望した場合は紙の認証書が発行される。また、CCC 認証書とマークの作成、使用は、《強制性製品認証書管理要件》と《強制性製品認証マーク管理要件》に基づいて行われる。

総務省: 情報通信審議会 電波防護指針の在り方に関する検討作業班 (第 15 回) 配付資料

- 今会合において、以下等が討議された。
 - (1) 適用除外となる電力について
 - IEC 62479:2010 規格を使用。吸収電力密度の指針値に基づいた適用除外となる電力の最大値 (P_{max}) の計算方法が紹介された。
 - (2) 電波防護指針の見直しの方向性について
 - 国際ガイドラインとの調和を念頭に、吸収電力密度の指針値の導入 (6 GHz~300 GHz) が検討されている。

IEC: 規格解説: CISPR 16-2-3 第 4.0 版 2019-06 修正 1, 修正 2 – 放射妨害波の測定 (1/2)



Summary

CISPR 16-2-3 第 4.0 版「無線妨害波およびイミュニティの測定装置および方法の仕様 – パート 2-3: 妨害波およびイミュニティの測定方法 – 放射妨害波の測定」の修正 1 は 2019-06 付けで発行されている。修正 2 は 2023-03 付けで発行された。

修正 1 (A1) の主要内容

「7.1.2 測定方法、周波数範囲、測定距離に依存する最大 EUT ボリュームの概要」

本新設項において、最大 EUT ボリュームが、周波数区分ごとに、又、試験場又は試験の種類ごとに定められた。これを定めるための理論的背景は、「付属文書 F (参考) 測定距離と周波数範囲に依拠した EUT ボリューム仕様の背景」に記載されている。

「7.6.6.1 1 GHz を超える放射界測定法の概要」

本改定項において、図 20 に誤りがあったため、今回の修正 1 に記載のものに変更。又、従来の規定では不正確な測定を行わせる可能性があったので、電界強度測定は、「任意の電界強度測定周波数において、 w が EUT ボリュームの高さ以上となるように測定距離 d とアンテナの種類を選択し」行う必要があるとした。「7.6.6.2.4 最終測定手順」でも同目的のための変更が行われた。

修正 2 (A2) の内容は、次号で報告する。

CISPR 16-2-3 第 4.0 版 2019-06 修正 1 (A1) 無線妨害波およびイミュニティの測定装置および方法の仕様 – パート 2-3: 妨害波およびイミュニティの測定方法 – 放射妨害波の測定

本「修正 1」の主要目的は、試験方法および測定距離に依存する放射妨害波測定用の EUT ボリューム仕様 *volume specifications* に関する CISPR 16-2-3 の修正である。また、EUT のサイズが比較的大きく、受信アンテナのビーム幅の中に、EUT をとらえきれない場合の正しい測定方法について、従来の誤解を招く規定を修正した。

(以下解説文で、ローマン体 (立体) は規格本体のテキストそのものであり、斜体は編集人によるテキストである)

2 規範的参照

今回 A1 修正により、本文書の各所で下記の規格または用語が変更されている:

CISPR 16-4-2 >>>> CISPR 16-4-2:2011
CISPR 16-4-2:2011/AMD1:2014
CISPR 16-4-2:2011/AMD2:2018

CISPR 16-1-4 >>>> CISPR 16-1-4:2018
これは更に、次回の報告で述べる A2 により
>>>> CISPR 16-1-4:2019
CISPR 16-1-4:2019/AMD1:2020
CISPR 16-1-4:2019/AMD2:2023

に変更された。

3.1 用語と定義(3 用語、定義と、短縮語)

下記等の、いくつかの用語の定義が追加された:

大型ループアンテナシステム LLAS、吸収体配列の OATS/SAC、適合性試験サイト COMTS、試験ボリューム *test volume*、EUT ボリューム

ここで、試験ボリューム *test volume* は、「EUT が配置される可能性のある試験施設内の検証済みのボリューム」。又、EUT ボリュームは、「実際の EUT のすべての部分を完全に包含する EUT 境界の直径と高さによって定義される円柱、ただしここには、ケーブル ラックおよびケーブル長 1.6 m (30 MHz



株式会社コスモス・コーポレーション

自動車部品の耐水試験についてのご案内

当社では自動車部品に対する耐水試験が実施可能です。

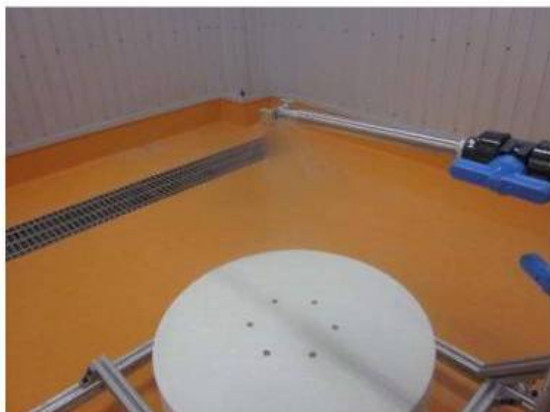
(JIS D 0203 対応)

対象試験記号: R1 / R2 / S1 / S2

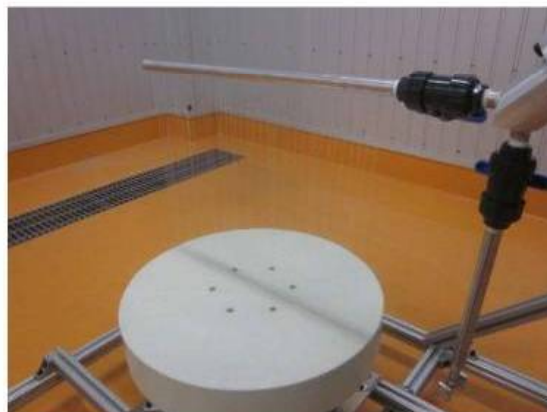
評価実施内容

散水試験	R1・・・ 水滴に触れることのある部品の機能を調べる試験 R2・・・ 間接的に風雨又は水しぶきを受ける部品の機能を調べる試験
噴水試験	S1・・・ 直接風雨又は水しぶきを受ける部品の機能を調べる試験 S2・・・ 強い受水状態について部品の機能を調べる試験

R1 及び R2



S1 及び S2



耐荷重: 45kg まで試験実施可能です。

許容サンプルサイズ: 実施可能サンプル寸法は規格に従い、基本的に 40cm の高さで設定していますが、それ以上の寸法であっても対応可能な場合もございますので、指定のサンプルサイズを事前にご連絡下さい。

松阪事業所 : 〒515-1104 三重県松阪市桂瀬町 718-1

URL : www.safetyweb.co.jp E-mail : sales@cosmos-corp.com

【お問い合わせはCS部まで -- TEL:0598-30-5225(直通), FAX:0598-30-5571】

株式会社コスモス・コーポレーション

社長の独り言

2023 年 8 月 20 日
濱口 慶一

皆様、猛暑が続きますが変わりなくお過ごしでしょうか？異常気象の影響か、先日の台風 6 号の進路はあまり経験のないコースで進みましたが、皆様の事務所や工場に何も影響が出なかったことを願っています。

さて、今月は手前味噌になってしまいますが、自分の自慢話からさせて下さい。長岡技術科学大学の非常勤講師である佐藤国仁先生が、弊社が IECEE CB スキームの NCB になったことを日刊工業新聞社発行の“機械設計”9 月号で、“良い仕事”として取り上げてくださいました。社長としての、これからの私の行動を大きく後押ししていただいた感じです。この号は 9 月号発売の 1 ヶ月後には PDF でも販売されるため、その後は自由にお使い下さいと許可が出ましたので、弊社の HP にて公開したいと考えています。

NCB になりたかった理由はいろいろあるのですが、大きくは以下の点です。

- 1、製品安全認証・評価関係の経済安全保障の観点で常に市場を見ていくこと。
- 2、会社法などで企業倫理は強く求められます。会社という組織の中で、製品開発・設計者や製品安全を組み込む業務をされている技術者は、所属する組織の経営責任者に対して将来的な損失を最小限度にするよう努力する必要があります。この立場から、弊社の技術者には技術者倫理を常に求めており、製造物責任法での製品安全が如何に大切であるかを考えて行動するよう教育していきたいと思います
- 3、弊社は医療機器などの一部製品の認証業務を国から認定されて遂行していますが、倫理観はもちろんのこと、住本守氏監修の“ISO/IEC 17065:2012 製品認証機関に対する要求事項解説と適用ガイド”を、認証機関への明確な要求事項の解説書として、幹部に学習させています。決して要求事項からの逸脱行為が生じないように、全力で認証機関としてのシステムを維持していきます。また関係諸団体の責任者の方々にもお願いですが、上記書籍で住本氏が解説する“コンサルティング”に関する内容では、認証機関に認証を依頼する製品モデルに関しての規格上の適否の判断は禁止されているが、他機関へ認証をお願いする場合の規格適否の技術指導は、認証機関であっても可能だにご理解をお願いしたいです。
- 4、先日監督省庁との打ち合わせで過激な価格競争をしないようにと一言忠言をいただきました。しかし、1987 年のコスモス創立以来、株式会社エーペックス・インターナショナルを退職した裸一貫の私を支持して、製品安全申請・評価・認証業務遂行をできる企業まで成長できたのは、現在の多くのお客様のお陰と理解しています。したがって少しでも利益を本来のお客さへの還元をするのが民間認証機関の努めと理解しています。現在は材料費や輸送費など諸経費が高騰する中ですが、コスモスは当面、皆様へのお礼の意味でも、可能な限り企業努力で値上げを回避していきたいと考えています。
- 5、最後に、“市買試験”認証機関として、お客様から提供いただいた最低限のサンプル（1~2 台）、カタログなどで業務をある程度進めることができると確信していますので、徹底して“納期短縮”を最大の目標に社内品質活動を実施していきたいと思います。

市場の真のお声を社員に気づかせる必要もありますので、皆様からも少しきつめに（社長は短納期と言っているぞと）社員への指導をお願いいたします。

● ニュースレターの内容

本誌は、EMC、安全、及び省エネ (EMC, Safety and Energy Conservation) 分野に係り、世界の主要機関/地域により実施されかつ電気電子製品デバイスに適合が求められている規格/法規制について、その関連情報を、お届けいたします。

重要情報を幅広く調査、収集、かつ、要約して掲載し、当該分野の最新情報、潮流をすばやく捉えることができるようにいたします。情報源を明示しますので、貴殿の関心により、更に深い調査が可能です。

本誌は各国への技術法規適合製品を試験 認証 開発 管理される部門の方にとり必読の内容です。

- 対象機関/地域: IEC 等国際機関、並びに、FCC, UL を含む米国、EU 及び UK, CENELEC, CEN を含む欧州、その他オセアニア、及び日本を含むアジアの各地域

- 情報源: カバー対象の機関、地域の Web site、或は情報サービス。又、ご協力のご同意を頂いた日本国内及び米国・欧州・中国・韓国・台湾などの当該分野権威者から提供された情報。

● 本誌購読のお申し込み方法

コスモス・コーポレーション CS 部 (カスタマーサービス部) まで Yamashita-jun@cosmos-corp.com

Tel 0598-30-5225

Fax 0598-30-5571

- 発行: 年間 11 回発行。各号 A4 版、40 ページ前後。

- 価格: 各号 2,000 円 (年間購読の場合 1 年 11,000 円)(消費税込)

● 本誌の内容案内、ご購入案内は、<https://www.safetyweb.co.jp/services/other/publication/>

本誌の記事が正確であるよう最大の努力を払っておりますが、間違いが含まれていることがあるかもしれません。本情報をご使用になられる場合はご自身でもう一度ご確認ください。

株式会社コスモス・コーポレーションは、下記 Web site の運営体からそれぞれ個別の条件の下、Web 情報の引用、転載につき許可を頂いております。翻訳転載された記事の著作権は著作権者に属します。本誌掲載記事の無断転載を禁じます。本誌の複製、再配布は電子的なものを含み禁じます。

国際機関	IEC: International Electro technical Commission	国際電気標準会議
米州	A2LA: American Association for Laboratory Accreditation	米国試験所認定協会
	ANSI: American National Standards Institute	米国規格協会
	FCC: Federal Communications Commission	連邦通信委員会
	IEEE: Institute of Electric and Electronics Engineers	米国電気電子学会
	CSA: Canadian Standards Association	カナダ規格協会
欧州	CENELEC: European Committee for Electro technical Standardization	欧州電気技術標準化委員会
	ECO: European Communications Office	欧州通信オフィス
	ETSI: European Telecommunications Standards Institute	欧州電気通信標準協会
	EU/EC: European Union/European Commission	欧州連合/欧州委員会
オセアニア	ACMA: Australian Communications and Media Authority	オーストラリア通信/メディア局
	NZ: New Zealand Government Radio Spectrum Management	ニュージーランド政府 RSM
アジア	BSMI: Bureau of Standards, Metrology & Inspection	台湾經濟部標準檢驗局
	CNS: Chinese National Standards Online Service	台湾中国国家規格検索システム
日本	METI: Ministry of Economy, Trade and Industry	経済産業省
	MIC: Ministry of Internal Affairs and Communications	総務省
	NPB: National Printing Bureau	独立行政法人国立印刷局
	VCCI: Voluntary Control Council for Interference	一般財団法人 VCCI 協会

Cosmos Corporation is granted the copyright authorization for the reproduction of the Web site information from the above listed organizations with the individual condition. Further use, modification, redistribution of the information on the Cosmos Newsletter on EMC & Safety is strictly prohibited.

コスモス ニュースレター EMC & 安全 (Cosmos Newsletter on EMC & Safety) 2023-09-01 (No. 156)

発行所: 株式会社 コスモス・コーポレーション 本社・松阪事業所

住所: 〒515-1104 三重県松阪市桂瀬町 718 番地 1

ホームページ: <https://www.safetyweb.co.jp/>

発行人: 濱口慶一

編集人: 倉品光雄 iNARTE 認定 Certified EMC Engineer (EMC-002315-NE)

© 2023 株式会社コスモス・コーポレーション Cosmos Corporation

本誌の複製、再配布は電子的なものを含み禁じます。